

令和4年度

高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業

第1回高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議資料

国立障害者リハビリテーションセンター

令和4年6月29日

於：Web会議形式

令和4年度 第1回支援コーディネーター全国会議

開催日時：令和4年6月29日（水）13：00～16：15

開催方法：Web 会議方式

対象者：高次脳機能障害支援拠点機関に所属する支援コーディネーター等

1 開 会

- 2 開会あいさつ 13：00～13：05
国立障害者リハビリテーションセンター 高次脳機能障害情報・支援センター長

3 講 演

- 「高次脳機能障害者の復職支援とアセスメント」 13：05～14：15
独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
障害者職業総合センター職業センター
あくつ 千弘 氏

<事業紹介>

- 「国立職業リハビリテーションセンターにおける高次脳機能障害者への支援」 14：15～14：35
独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
国立職業リハビリテーションセンター

- <休 憩> 14：35～14：50

- 4 実践報告 14：50～15：10
千葉県千葉リハビリテーションセンター
「千葉リハ就労支援～高次脳機能障害者就労移行支援プロジェクトを中心に」

5 グループ討論会

「地域における高次脳機能障害者への就労支援体制について」

- ①グループ討議 15：10～15：55
②発表 15：55～16：10

- 6 閉会 16：10～16：15

< 講 演 >

高次脳機能障害者の復職支援とアセスメント

本講演では、障害者職業総合センター職業センター発行の実践報告書No.40
「高次脳機能障害者の復職におけるアセスメント」の紹介があります。

お手元がない場合は、下記からダウンロードをお願いいたします。

<https://www.nivr.jeed.go.jp/center/report/practice40.html>

高次脳機能障害者の 復職支援とアセスメント

障害者職業総合センター職業センター
開発課 職業準備訓練係

本日の内容

実践報告書No.40

「高次脳機能障害者の復職における
アセスメント」（令和4年3月発行）のご紹介

※ 高次脳機能障害者の職場復帰支援において
アセスメントから事業主との調整にいたる一連
の支援に関わる技法とツールを紹介

目次

1. 技法開発の背景
2. 高次脳機能障害者の職場復帰支援の流れ
3. 職場復帰支援におけるアセスメント
4. 支援方針の検討
5. まとめ

1. 技法開発の背景

技法開発の背景

●職場復帰支援の課題点

- ①高次脳機能障害の症状や状態像の多様さ、個別性、複雑さ、見えにくさ
- ②支援課題が多方面にわたる
- ③限られた期間の中での支援



●アンケート結果（地域障害者職業センター、関係機関）

「高次脳機能障害のアセスメントや自己理解の促進に関する支援技法を開発してほしい」

「職場復帰支援の手続きをわかりやすく示してほしい」

2. 高次脳機能障害者の職場復帰支援の流れ

高次脳機能障害者の職場復帰支援の流れ

対象者（休職者）

①障害特性を整理し、職業生活上の課題について理解を深める

②生活リズムを整える、健康を管理する、通勤の練習をする等

③課題への対処策（補完手段）の習得を図る

④復職後の職務に必要な作業遂行力の向上を図る

⑤職場に依頼する配慮事項を整理する

情報交換

事業主

①対象者の障害特性と就労上配慮が必要なことを確認する

②職務や配置、労働条件を検討する

③復職を想定している部署に障害特性や必要な配慮を説明する

③ 復職部署に障害特性や必要な配慮を説明する

(リハビリ出勤)

事業所にて復職可否の判断

復職

在宅生活の安定

医学的リハビリテーション

受障

職場復帰支援における支援ツールの紹介

アセスメント

- 障害特性を整理する

- 職業生活上の課題について理解を深める

特性チェックシート
特性チェックシート簡易版

高次脳機能障害者の
職場復帰支援アセスメントシート

病院からの神経心理学的検査の結果
(神経心理学的検査の見方)

支援方針の検討

ケースフォーミュレーション

職業前訓練

- 生活リズムを整える、健康を管理する、通勤の練習をするなど
- 課題への対処策(補完手段)の習得を図る
- 復職後の職務に必要な作業遂行力の向上を図る

対処策リスト255

事業主との調整に向けた準備

- 職場に依頼する配慮事項を整理する

リファレンスシート

事業主との調整

事業主のための職場復帰
に関する参考資料集

高次脳機能障害者の職場復帰に向け
準備を進める事業主の皆様へ(リーフレット)

事業主

- 休職者の障害特性と就労上配慮が必要なことを確認する
- 職務や配置、労働条件を検討する
- 復職を想定している部署・復職部署に障害特性や必要な配慮を説明する

3. 職場復帰支援におけるアセスメント

高次脳機能障害 特性チェックシート

高次脳機能障害 特性チェックシートについて

【チェックシートの目的】

このチェックシートは高次脳機能障害について、様々な特性が職業生活にどのように影響しているかを全体的に把握するためのものです。
 特性別に項目を分類していますが、専門的に判定をしようとするものではなく、多様で個人差が大きく、とらえにくいと言われる高次脳機能障害の特性を、具体的な職業生活場面に応じて整理し、支援の方向性や手立てを考えるヒントを得ようとするものです。

【回答の仕方】

それぞれの項目を見て、普段の職業生活のなかで受障によって生じたと思われることについて、「はい」、「ときどき」、「いいえ」の3つから1つを選び回答してください。
 現時点で、自分のことをどのようにとらえているかを教えてください。正しいとか、間違っているということはありませんので、思ったとおりに教えてください。
 項目の意味がわからないときには、空欄のままでもかまいません。

【留意して頂きたいこと】

高次脳機能障害は、障害の内容や症状の現れ方が非常に多様であり、このチェックシートの項目でその全てを網羅している訳ではありません。
 ご自身で障害の特性を把握したり、ご自身と家族など周りの方との障害認識の違いを確認するための補助的手段として活用いただけます。
 なお、ご自身の症状等の専門的な判定については、主治医や医療機関にご確認ください。

【その他】

特徴的な項目のみ抜粋した簡易版もありますので、適宜ご利用ください。

記入日	
氏名	
記入者氏名 (対象者と記入者が別の場合)	(対象者との関係:)

高次脳機能障害 特性チェックシート (一部例)

下記の障害特性について自分に当てはまるかどうか、次の三択で回答してください。

主な症状	注意を向けるべき対象に適切に注意を向けること(選択性)や注意を長時間維持することが難しい(持続性)。 複数の対象に同時に注意を払うこと(分配性)や状況に応じて注意の対象を切り替えることが難しい(転換性)。				
注意障害	全般性	何となくぼんやりしていることが多い。	はい	ときどき	いいえ
	選択性	周りの音や声に注意が散って作業ができない。	はい	ときどき	いいえ
	持続性	1つのことに長く集中して取り組めない。	はい	ときどき	いいえ
⋮					
主な症状	情報を覚えたり、保持したり、必要な時に引き出すことが難しい。				
記憶障害	前向き健忘	受障後に経験したことが思い出せない。 (例：受障後に知り合った人の名前や顔が中々覚えられない)	はい	ときどき	いいえ
	逆向き健忘	受障前に経験したことが思い出せない。 (例：家族や上司の名前を思い出せない)	はい	ときどき	いいえ
	エピソード記憶	発症前の仕事内容や思い出の記憶があいまいである。	はい	ときどき	いいえ
⋮					

注意障害

記憶障害

遂行機能障害

半側空間無視

失認

失行

易疲労

気づき

失語

社会的行動障害

高次脳機能障害 特性チェックシート

【活用のねらい】

- ◆ 高次脳機能障害の症状を、職業生活での具体的な行動レベルの困難さと結び付けて整理する
- ◆ 対象者の障害特性に対する自己理解を深めるための相談ツールとする
- ◆ 障害特性の具体的な現れ方を事業主に説明するための資料の材料となる
- ◆ 具体的な対処策や環境調整の工夫を検討するときの手がかりとする

※ 行動レベルの困り感を確認するもの。

医療的診断ではない。

高次脳機能障害者の職場復帰支援 アセスメントシート

1 治療・リハビリの経過を整理しましょう。

〈1〉高次脳機能障害が発症した時の状況、受障した時の状況を整理しましょう

高次脳機能障害の発症原因	・脳卒中（脳出血、脳梗塞など） ・頭部外傷 ・脳腫瘍 ・脳炎 ・低酸素脳症 ・その他（ ）
発症日・発症年齢	年 月 日（ 歳）
発症時の状況	
高次脳機能障害診断	・あり（診断日： 年 月 日） ・なし
神経心理学的検査（知能検査、記憶検査など）の結果	・あり（ ） ・なし

高次脳機能障害
症状

2 職場復帰に向けた情報を整理してみましょう。

〈1〉職場復帰の手続きについて記入してください。（分かっている範囲で構いません）

休職開始日	年 月 日	休職期限	年 月 日 まで		
休職期間	年 月 日 ~ 年 月 日（ 年 カ月間）				
現在の状況	・有給休暇 ・病気欠勤 ・休職 ・その他（ ）				
職場復帰にあたっての 事業所担当者	窓口の優先順位	氏名・役職	連絡先	健康情報開示	備考
	人事担当			可 ・ 否	
	健康管理室			可 ・ 否	
	上司			可 ・ 否	

4. 支援方針の検討

ケースフォーミュレーションとは

- ◆ 収集した多様な情報を統合しながら支援課題を明確化し、介入方法を組み立てる方策
- ◆ 複雑な情報を図式化することで、情報をまとめ、整理し、解決すべき支援課題や取り組むべき支援方針の見立てる

高次脳機能障害者の職場復帰支援では、個人要因及び環境要因が関わる多面的な支援課題が考えられ、包括的なアプローチの検討が必要となるため、ケースフォーミュレーションの作業は重要

情報整理シートと ケースフォーミュレーションシート

情報整理シート

支援課題の明確化

- ◆ アセスメントで得られたさまざまな情報を項目ごとに取りまとめる
- ◆ 項目ごとに支援課題を検討する

ケースフォーミュレーションシート

支援方針の検討

- ◆ 情報整理シートで明確化した項目ごとの支援課題に対して、支援課題に影響を及ぼす要因（環境要因と個人要因）の仮説を立て、支援方針を検討する

事例紹介

Aさん（男性 50代）

障害状況：右上下肢機能障害

高次脳機能障害

（失語症、軽度の注意障害）

B事業所：ガス、排水衛生設備工事

退職前の業務：総務事務（保安書類の取りまとめ、監督官庁への届け出等）

《演習》

体験～支援課題の検討～

支援課題について、支援方針を検討してみましよう。

- ①支援課題の中から、支援方針を検討したい内容を選び、支援課題に書き込みましよう。
- ②支援課題に影響を及ぼしたり、活用できそうな環境要因、個人要因を書き出ましよう。

(本来であれば話し合いながら検討していきますが…)

- ③支援方針を立ててみましよう。

対処策リスト 255

注意障害

注意を向けるべき対象に適切に注意を向けることが難しい。注意を長時間維持することが難しい。複数の対象に同時に注意を払ったり、状況に応じて注意の対象を切り替えることが難しい。

自己対処の工夫

刺激の統制

- 目の前に、必要な物だけ準備する。視界にはいる余分な刺激を減らす。
- 画面の動きや物音に注意がそれないように、作業台を壁側に向けたり、パーテーションを使い視界を遮る。

記憶障害

物の置き場所を忘れる、新しいできごとを覚えられない、同じことを繰り返し質問するなど、情報を覚えたり、保持したり、必要な時に引き出すことが難しい。

自己対処の工夫

整理整頓

- 道具や物の置き場所を一定の位置に決めていつも同じところに戻す。
- 覚えなくてもその場で見てわかるように、箱や引き出しにラベルを貼る。
- 場所がわからなくなる場合は、目印や矢印をつける。
- 物を探すときは、いつも同じ順番で探すようにする。



道具や物を置く場所を決める

外的補助具の活用

- 外的補助具を活用する。(メモリーノート、ふせん、手帳書、アラーム、タイマーなど)
- メモ用紙を机の上に置いておく。
- 携帯電話、スマートフォンのスケジュール機能やリマインダー、ボイスメモなどを活用する。
- 重要なポイントや数字はあらかじめメモにして報告する。
- 電話の内容はメモに取り、聞いた内容を復唱して確認する。
- 腕時計や卓上時計で日付が表示されるタイプのものを用意し、いつでもそれを参照する習慣をつける。
- その日に起こったことを日記に書き、日記を読み返す習慣をつける。



メモリーノート

- スケジュールや作業手順などの情報管理にメモリーノートを活用する。
- スケジュール、Todoリスト、重要メモなど、どこに何を書くかを明確にして共有する。

ヘッドホンの騒音をカットするノイズキャンセリングヘッド

アラーム、タイマー、ルーラー、書見台、拡大鏡、老眼

下線付きルーペにより注目する箇所を強調する。

ることで、どこまで作業を行った



ロールふせん

認する。

利用し、入力データと音声を用



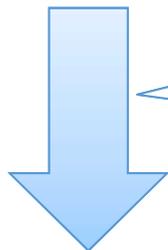
リファレンスシート

特性チェックシートの記載内容や観察結果などをもとに
 障害特性とその対処手段、事業主に理解・配慮を求めることを取りまとめ
 事業主や関係機関との情報共有に活用。

リファレンスシート		○…はい △…ときどき ×…いいえ		○…伝える △…検討中 ×…伝えなくて良い		月 日作成Ver	
No	特性チェックシートで確認された特性	どの程度あてはまるか		会社に伝えるかどうか		対象者と職業センターで整理した項目	
		1回目	2回目	1回目	2回目	対処手段	周囲に求める配慮、理解してほしいこと
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							

リファレンスシート 記入例

話す	言葉が出づらかったり、言いまちがえをする。	はい	ときどき	いいえ
	「えーっと」と言いよどんだり、「あれ」、「それ」や回りくどい表現になる。	はい	ときどき	いいえ
	同じ言葉でも、その時々で言えたり言えなかったりする。	はい	ときどき	いいえ
	錯語がある。(例：机を見て、椅子と言うなど)	はい	ときどき	いいえ



- ①チェックした項目をリファレンスシートに書き出す。
 ②対処手段、周囲に求める配慮、理解してほしいことを検討する。

リファレンスシート

○…はい
 △…ときどき
 ×…いいえ

○…伝える
 △…検討中
 ×…伝えなくて良い

〇月×日作成 Ver

特性チェックシートで確認された特性	どの程度あてはまるか		会社に伝えるかどうか		対象者と職業センターで整理した項目	
	1回目	2回目	1回目	2回目	対処手段	周囲に求める配慮、理解してほしいこと
言葉が出づらかったり、言いまちがえをする	○	○	○	○		言いまちがえは指摘してほしい。
「えーっと」と言いよどんだり、「あれ」、「それ」や回りくどい表現になる。	△	○	○	○	仕事でよく使う言葉は「単語カード」を作って机の上に置き、確認できるようにする。	言葉に詰まっていたら、声をかけてほしい。 (例：「○○のことですか？」など)
同じ言葉でも、その時々で言えたり言えなかったりする。	○	○	○	○		特に人の名前は言えたり言えなかったりする。 →これも伝えることとする。
文章を書くときに、助詞(てにをは)など、文法的なあやまりが生じる。	△	△	△	○	WordやExcelなどの校正機能を使う。	可能であれば書類のダブルチェックをお願いしたい。
漢字が思い出しにくい。	△	△	△	×	スマートフォンの音声入力と漢字アプリを使う。	

3 事業主支援について

事業主のための職場復帰に関する参考資料集



事業主と具体的に職場復帰支援を進める際に、事業主が取り組むことが望まれる内容や復職事例について情報提供するもの



事業主から職場復帰支援を依頼された時に、職場復帰支援の流れや事業主が準備すべきことを説明するためのもの

高次脳機能障害者の職場復帰に向けて準備を進める事業主の皆様へ
(リーフレット)

本日のまとめ

【高次脳機能障害者の職場復帰支援】

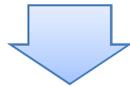
①アセスメントを実施

(特性チェックシート、アセスメントシート、神経心理学検査の結果)



②支援方針の検討

(ケースフォーミュレーションシート、対処策リスト225、リファレンスシート)



③事業主との調整

(参考資料集、リーフレット)

実践報告書(CD付)はご要望があれば、送付することができます。

お問い合わせ先：職業センター企画課調整係 (043-297-4043)

※アンケート調査にもご協力をお願いします。

ケースフォーミュレーションシート

環境要因

【家族】
・妻・子2人
・家族の理解・サポートは良好。

【地域生活】

【その他】

【職場】
・事業所は雇用継続を前提として考えている。
・身体面に配慮した職場環境の整備が必要。

【サポート機関】
・E病院リハ科(F医師・ST)

【原因となる疾患・外傷など】

脳出血(左被殻)

【支援課題】

【支援方針】

個人要因

【認知面】
●失語症
・コミュニケーションは口頭で実施。
・文字の読み取りは可能。
・PCでの文字入力は、キーボードで入力することが難しい。

【感情】
・本人はあまり不安を感じていない。

【その他】
・午後は疲労が溜まってくる。

【身体面】
●右上肢機能障害
・左手に利き手交換、右手は補助種。感覚鈍麻有り。
・PCは左側に機器を配置して、独力で作業可。

【障害認識】
・特性チェックシートでは、「言葉が出づらかったり、言いまちがえをする。」をはじめ多くの失語症の項目で「はい」と回答。

事例情報（情報整理シート）

属性情報	
氏名・年齢	Aさん（5X歳）
事業所名	B事業所
住所	C県D市
家族状況	妻、子供2人（高校生、中学生）
移動手段	公共交通機関利用可 車の運転は不可
支援制度	介護保険
収入状況	傷病手当金
支援課題	
・現在の収入水準を確保したいとの希望	

高次脳機能障害（手帳 なし）	
原因疾患等	脳出血（左被殻）
受傷年月日	20XX年X月
受傷時年齢	5Y歳
検査結果 （医療機関 から取得）	TMT-J partA:45秒 RBMT:SPS 23/24 スクリーニング 11/12
症状等	失語症 ごく軽度の注意障害

障害特性 （特性チェックシートおよび、作業場面の観察から把握）	<ul style="list-style-type: none"> ・家族とのコミュニケーションは時間はかかるが主に口頭で行っている。 ・人の名前を言いまちがえてしまうことが多い。 ・文字・文章を読むことは概ね可能。 ・PCの文字入力は、キーボードで入力することが難しい（特に擬音や擬音）。音声入力やアプリケーションの活用経験はない。 ・ワード、エクセルの操作方法を忘れてる。 ・書類の照合、入力内容のチェックなどは、時間がかかるが正確に行うことができる。
------------------------------------	---

支援課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・PC入力スキルの回復 ・言語コミュニケーションの対処策の習得 ・事業主に求める配慮の整理 	

生活習慣・健康状態	
生活リズム	・23時頃就寝、7時頃起床。生活リズムは安定しており、ほとんど乱れることはない。
食事	・毎日30分～1時間ほどの散歩を行っている。
運動	・ADL自立し、身の回りのことは自分でできている。
睡眠	
飲酒・タバコ	
その他	
支援課題	
・特になし	

ストレス・疲労	
ストレス状況	・受傷前に比べて周囲の雑音が気になるようになった。
	・POMSの結果には特に問題は見られない。
ストレスサイン	・午後になると疲れた様子が見られる。
	・時間が長くなると、作業のミスが増加する。
ストレス対処	・以前はドライブが趣味だったが、受傷後はできなくなってしまった。現在は特に趣味はなく、余暇はテレビを見て過ごすことが多くなっている。
支援課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・疲労のコントロール ・余暇の過ごし方についての検討 	

その他の症状（手帳 2 級）	
身体の状況	右上下肢機能障害 関節可動域:右上肢、右足関節に制限 感覚:右上下肢の表在感覚の重度鈍麻
補装具等	右下肢に短下肢装具を使用
生活習慣病	高血圧、高脂血症
てんかん	なし
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行制限は特になく、散歩では1時間の歩行継続が可能。 ・床の突起や障害物につまづきやすくなっている。 ・感覚鈍麻のために火にかけた鍋に右手が接していても気付かず、火傷してしまうことがあった。 ・右手は補助手レベルで、左手に利き手変換を行っている。時間はかかるが書字は可能。 ・しゃがみこむ動作が難しいため、トイレは洋式トイレが必要。
支援課題	
・本人の身体面に配慮した職場環境の確認が必要	

事業所情報		
休職期限	20YY年Y月	
担当者	総務課長	
復職までの流れ	プログラム終了後、会社に「復職願（会社書式）」と「主治医診断書」を提出。その後、①産業医面談、②人事面談を経て復職が決定。	
休職前の業務	総務事務	
	本人の希望	事業主の意向
復職時期	プログラム終了後、できるだけ早く。	休職期限内であれば本人の意向に合わせる。
勤務時間/日数	できれば最初は短時間勤務が良い。	主治医と産業医の意見に従って決定。
復職部署 復職後の業務	人間関係の良い元部署に復職したい。業務は自分にできる内容であれば何でも良い。	本人にできる業務次第で部署や業務内容、契約条件を検討したい。PC入力ができるれば対応可能な業務が増える。
支援課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・本人の身体面に配慮した職場環境の整備 ・対応可能な業務を把握し、職務内容について検討 		

医療情報	
通院先(科・主治医)	E病院リハビリテーション科 F医師
通院頻度	月1回
受診内容	高次脳機能障害に関する経過観察
服薬	降圧剤
現在実施中のリハビリ	ST
過去のリハビリ	OT、PT、ST
支援課題	
・特になし	

サポート体制	
利用中の支援機関	G相談支援事業所
支援内容	相談等
家族関係	送り迎えなどのサポートは妻が行っている。
その他相談相手等	プログラム開始までは、H就労継続支援B型事業所で軽作業を実施していた。
支援課題	
・特になし	

国立職業リハビリテーションセンター概要

ハロートレーニング
(公共職業訓練)

～急がば学べ～



独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構

国立職業リハビリテーションセンター

National Vocational Rehabilitation Center for Persons with Disabilities

1 国立職業リハビリテーションセンターの概要

● 設置・運営

昭和54年に労働省(現厚生労働省)により設置。(埼玉県所沢市)
(法令に基づき)独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が運営。

● 設置の趣旨

(隣接の)障害者リハビリテーションセンターとの一体的、有機的連携の下に職業評価、職業指導及び職業訓練を一貫した体系の下に実施し(=職業リハビリテーション)、障害者の職業的自立を促進する。

- 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 第4期中期目標(2018年度～2022年度)
国立職業リハビリテーションセンターは、「企業ニーズに的確に対応するとともに、障害者の職業拡大を念頭において、より就職に結びつく職業訓練の実施・指導技法等の開発に努めること。」

国立職業リハビリテーションセンター

障害者の雇用の促進等に関する法律第19条

中央広域障害者職業センター

- ・障害者職業カウンセラーを配置
- ・障害特性に応じた職業評価、職業指導、就職支援を系統的に実施
- ・雇用する事業主への助言援助

一体的
運 営

雇 用
定 着

職業能力開発促進法第16条

中央障害者職業能力開発校

- ・職業訓練指導員を配置
- ・個別カリキュラムによる職業訓練を実施
- ・障害特性に応じた効果的な技能指導を実施

※職業訓練と職業指導とが一体となったきめ細かく、かつ高度なサービス提供が可能

機構が運営する広域センターの特徴①

国立職業リハビリテーションセンター

中央広域障害者職業センター
中央障害者職業能力開発校

国立吉備高原職業リハビリテーションセンター

吉備高原広域障害者職業センター
吉備高原障害者職業能力開発校

国立・都道府県営の障害者能開校(11校)、府県立・営の障害者能開校(6校)との違い

① 障害者職業カウンセラーと職業訓練指導員が連携して適応支援と職業訓練を実施

職業適性等を把握するための職業評価、就職に必要な技能・知識等を習得するための職業訓練、職業訓練やその後の職業生活に適応するための適応支援、就職活動の支援や必要な情報の提供等を行う職業指導等、

個々の特性・能力に応じたきめ細かな総合的な職業リハビリテーションサービスを提供

② 年間を通じた入所機会を設定(随時入所、随時終了) <多くの能開校は年1~2回入校>

<国立職業リハビリテーションセンター>

- ・ 年間で10回の入所日を設定

※ 障害別の入所時期を設けずに、すべての障害種類で共通に、年間10回の受入れ

- ・ 見学説明会の毎月開催等により広く情報発信

機構が運営する広域センターの特徴②

国立・都道府県営の能開校(11校)、府県立・営の能開校(6校)との違い

③ 障害特性、能力、適性等に合わせた個別支援の実施

○ 一人ひとりに合わせた個別のカリキュラムを作成

- ・ 適性検査、訓練科での作業体験、面接等の実施による綿密な**職業評価**を実施し、**一人ひとりの障害特性、能力、適性等を把握(職業リハビリテーション計画の策定)**
- ・ すべての訓練生を対象として、入所当初に**導入期の訓練**を設け、作業体験等により**障害特性等の把握・自己理解の促進と対応法の調整等を実施**した上で、各訓練科で技能・技術を習得

○ 就職先の仕事内容に合わせた**企業連携職業訓練**を実施

- ・ 異なる環境下では業務の円滑・的確な遂行が困難となる者、身体動作の制限が多く特別な機器・設備が必要となる者を対象
- ・ 採用の可能性のある企業の協力の下、採用された場合に必要となる能力を付与するための特注型の訓練メニューを作成し、施設内訓練と企業内訓練を実施

④ 先導的な職業訓練等の実施とその成果の普及

- ・ 先導的な職業訓練実施の成果のもとに、職業訓練内容、指導技法等を他の障害者職業能力開発校等に提供することにより、**障害者職業訓練全体のレベルアップに貢献**

職業訓練の概要(1)

訓練系・訓練科・訓練コース (4系 10科 17コース 定員180人)

メカトロ系 【20】

機械製図科 (5)

- ・機械CADコース

テクニカルオペレーション科 (10)

- ・FAシステムコース
- ・組立・検査・物品管理コース

電子機器科 (5)

- ・電子技術・CADコース

建築系 【5】

建築設計科 (5)

- ・建築CADコース



ビジネス情報系 【110】



OAシステム科 (25)

- ・ソフトウェア開発コース
- ・システム活用コース
- ・視覚障害者情報アクセスコース **視覚**

DTP・Web技術科 (15)

- ・DTPコース
- ・Webコース

経理事務科 (10) ・会計ビジネスコース

OA事務科 (60) ・OAビジネスコース

身体 **精神** **発達** **高次脳** **難病**

職域開発系 【45】



職域開発科 (25)

- ・物流・組立ワークコース
- ・オフィスワークコース

精神 **発達** **高次脳**

職業実務科 (20)

- ・販売・物流ワークコース
- ・オフィスワークコース
- ・ホテル・アメニティワークコース

知的

職域開発科とその他の科(一般科)の差異について

※「専門的な技能習得訓練」と「適応支援」のウエイトが異なります。

一般科

専門的な技能習得
に重点

補完手段活用等の支援

職域開発科

専門的な技能習得

職場環境・訓練環境への
配慮の整理

補完手段活用への支援

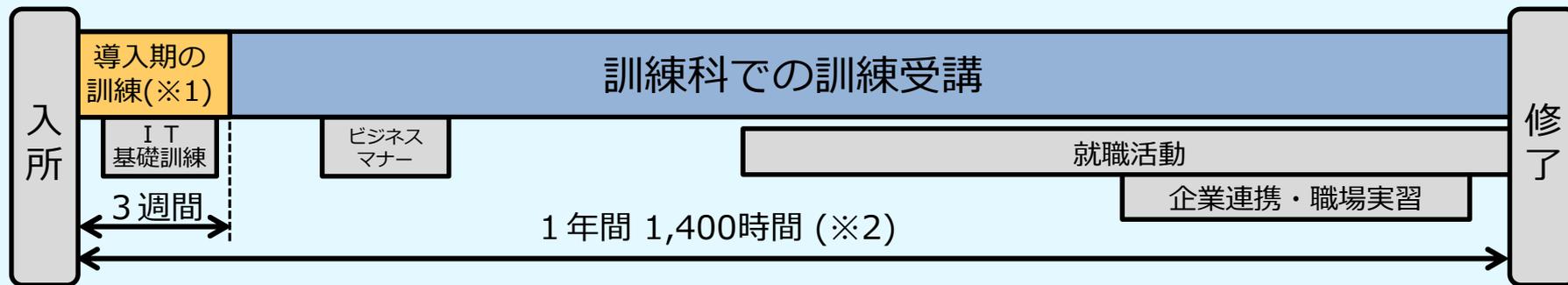
社会生活技能習得支援

※ 適応支援

生活リズム、自己対処能力(補完手段活用)、社会生活技能の習得に関する支援や訓練環境等への配慮の整理に関する支援

職業訓練の概要(2)

○ 1年間の流れ



※1 導入期の訓練では、「安定受講」や「困っていること、作業のやりにくさ」について整理し、訓練場面や就労場面で活用できる対応法を習得します。

※2 重度視覚障害者を対象とした視覚障害者情報アクセスコースは、情報アクセス機器の操作方法習得のための導入訓練と合わせて、訓練期間は1年3ヶ月間となります。

- ・土曜・日曜日、国民の祝日は訓練はありません。
- ・夏季、年末・年始、年度末・年度初めに1週間程度の訓練休があります。

○ 1週間の訓練時間

曜日	月	火	水	木	金
時間	7	7	6	6	6

○ 1日の訓練時間

時限	時間
1・2	8:50~10:30
休憩	(10分)
3・4	10:40~12:20
休憩	(60分)
5・6	13:20~15:00
休憩	(10分)
7	15:10~16:00

訓練生活（服装・費用・昼食）

① 服装

制服はありません。社会人として**職場に相応しい服装**で受講をお願いします。



② 費用

入学金・受講料は無料です。
作業服、受験料、受験参考書等は自己負担になります。

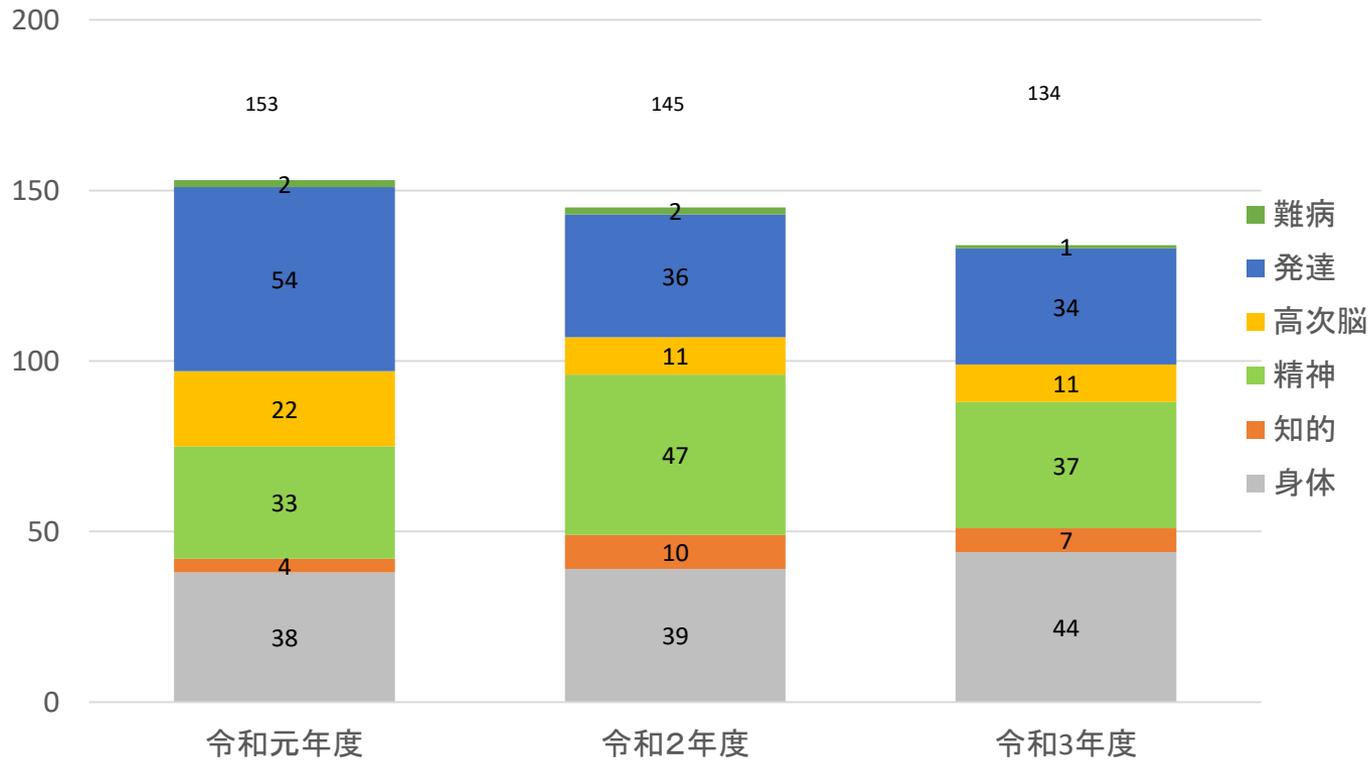
③ 昼食

センターには食堂はありません。
障りハ病院食堂・コンビニの利用、
仕出し弁当の注文、または、ご自分で用意してください。

障りハに入所されている方は、障りハでとることができます。



障害種別入所者数推移



※定員: 180人

訓練科別の主な就職職種

訓練科	主な訓練内容	主な就職職種
機械製図科	機械加工、2次元CAD、3次元CAD	機械加工、機械設計補助
電子機器科	電子機器組立、電子CAD、電子制御	電子機器組立・検査
テクニカルオペレーション科	機械加工、電気制御 機械仕上げ、組立、配線、測定、部品管理、倉庫業務	電子・電気・機械組立、部品管理
建築設計科	建築設計、設備機器、2次元CAD、3次元CAD	CADオペレーター
DTP・Web技術科	DTPシステムを活用したチラシ、ポスター作製	印刷、出版、DTP関連業務
OAシステム科	情報セキュリティ、プログラムの設計・開発 情報セキュリティ、ネットワーク管理、Webページ作成 視覚障害者用アクセス機器・ソフトを活用したOA機器での事務処理	システム開発、プログラマ、システム管理、ネットワーク管理、一般事務、OA事務
経理事務科	簿記、税務、財務、販売、OA機器での事務処理	経理事務、総務事務、営業事務
OA事務科	事務、OA機器での事務処理	一般事務、総務・営業事務
職域開発科	物流作業、製品の組立、OA機器でのデータ入力、事務補助	物流、製造、製造補助 一般事務、事務補助、データ入力
職業実務科	物流作業、OA機器でのデータ入力、事務補助、清掃、食器洗淨	物流、商品管理、一般事務、事務補助、データ入力、ホテル、清掃業務、厨房関連業務

サービス利用の流れ①(利用開始までの流れ)

身体障害者・難病・高次脳機能障害者

知的障害者・精神障害者・発達障害者

宿舎利用

通所

通所のみ

市町村

障害支援区分認定

サービス利用計画作成

ハローワーク

職業相談・求職登録

国立障害者リハビリ
テーションセンター

<自立支援局>
宿舎利用
障害者総合支援法に基づく
サービス利用の開始

職リハ入所申込書類の送付

連携

地域障害者職業センター
事前相談(予備評価)

協力

国立職業リハビリテーションセンター

連携

サービス利用の流れ②(入所申請から修了までの流れ)

入所希望者 (求職登録 ⇒ 入所申請)

I 職業評価

入所決定会議 (入所の可否、訓練コースの決定 等)

職業リハビリテーション計画の策定

受講指示・推薦 (ハローワーク)

入所

入所

II 職業訓練の実施

ケース会議 (中期)

III 職業指導の実施

修了決定会議 (フォローアップ方針等)

修了

就職、職場適応

フォローアップ

連携

地域障害者職業センター
ハローワーク
就労支援機関等

国立障害者リハビリテーションセンターの施設入所 支援（宿舎）の利用について

身体障害、難病、高次脳機能障害のある方であって遠隔地にお住まいの方や通所が困難な方等で、施設入所支援（宿舎）の利用を希望される場合は、国立障害者リハビリテーションセンターの利用申請手続きを行ったうえで当センターへ入所申請を行ってください。

<宿舎利用に関するお問い合わせ先>

国立障害者リハビリテーションセンター

総合相談課 電話 04-2995-3100（代表）

FAX 04-2992-4525（直通）

職業評価に係る宿泊施設(ホテル等)の利用について

- ①身体障害、高次脳機能障害、難病のある方のうち新規学校卒業予定の方について
 - 職業評価の受検に当たって、障害者リハビリテーションセンター宿舎の利用ができません。居住地から通所が困難な方については、職リハが契約した宿泊施設（ホテル等）の利用ができます。
- ②精神障害、発達障害のある方（新規学校卒業予定の方含む）
 - 障害者リハビリテーションセンター宿舎の利用ができません。職業評価の受検に当たって、居住地から通所が困難な方については、職リハが契約した宿泊施設（ホテル等）の利用ができます。なお訓練受講中は、通所可能なところにアパートなど居住場所を自分で用意していただきます。

入所したことで、自分の障害をよく理解することができ、特性を踏まえて、どう対応すればいいかも学ぶことができました。また、訓練以外でも就職活動では多くのサポートをして頂きました。

一人ひとりのペースに合わせてカリキュラムを作成してもらい、また、何かあればすぐに相談できる環境が安心して職業訓練に取り組むことができました。

社会人のマナーを一から学べたこと、技能を身につけられたこと、そして職場実習を通して良い就職先にめぐり会えたことです。発達障害に対しての支援が整備されているように感じました。

おわりに ～ 訓練修了者の感想から

セルフマネージメント訓練で、自分の課題を考えることにより、いざという時の対処法を知ることができたのがとてもよかった。自分の問題を見つめ、考える時間を与えてくれたことに感謝します。

物流・組み立てコースで、自分の知らなかった社会のルールや仕事の適性を知り、目指すべき就職先の候補を見つけることができました。

入社2年目になりました。人事の方から契約更新の話があり、今は仕事に全力で頑張っています。職リハセンターからは是非当社に入社してほしいなと思います。仕事とは何なのか、就職活動の苦勞を感じてほしいなと思っております。

受傷等で休職中の方のための 復職に向けた職業訓練(6ヶ月)のご案内

国立職業リハビリテーションセンターでは、[受傷等により休職している](#)身体障害、高次脳機能障害等を有する方のための復職のための職業訓練を実施しています。

対象者：疾病、事故等で休職し職場復帰を目指している

- ・身体障害者手帳を取得している方
- ・高次脳機能障害のある方
- ・難病のある方等

入所日：随時（いつでも応募可能です）

訓練期間：原則6ヶ月間

- ★復職時期等に応じて6か月以内で柔軟に設定することも可能ですので、お気軽にご相談ください。

受講料：無料（教材費等は実費を負担していただきます）

利用要件：①休職中であって、在籍している事業所への復職を希望していること。

- ②復職を進めるにあたって、事業所が当センターの訓練受講について同意をしていること。

実施例

職場復帰後の職務を想定した職業訓練を実施します。

高次脳機能障害者

脳梗塞により高次脳機能障害を受障。工場の生産ライン工から事務職へ職種転換を図るために、新たな技能・知識の習得、記憶・遂行機能障害を補完する代償手段の獲得を目指して入校

訓練内容

- スケジュールの自己管理
- 補完方法の習得（付箋・TO・DOリストの活用）
- OA機器の基本操作方法の習得
- 復帰後の事務作業（データ入力等）を想定した技能の習得



視覚障害者

疾病により視覚障害を受障。事務職の業務をスムーズに進められるようにするために、視覚障害者用アクセス機器およびアクセスソフトの活用方法の習得を目指して入校

訓練内容

- 拡大読書器の活用
- 画面読み上げソフト・画面拡大ソフトの活用
- 復帰後の業務（従業員の勤怠入力等）を想定した技能の習得



肢体不自由者

交通事故で身体障害（両下肢機能）を受障。現場監督からCADオペレータへの職種転換を図るために、新たな技能、知識の習得を目指して入校

訓練内容

- 建築設計・リフォームに関する2次元および3次元CAD等に関する知識・技能の習得
- OA機器の基本操作方法の習得



訓練の特長

・対象者の障害状況やスキル、事業主のオーダー等を踏まえて所属する訓練科を決定し、訓練カリキュラムをオーダーメイドで設定します。そのため、復職後の具体的な職務内容を想定した訓練を行うことができます。

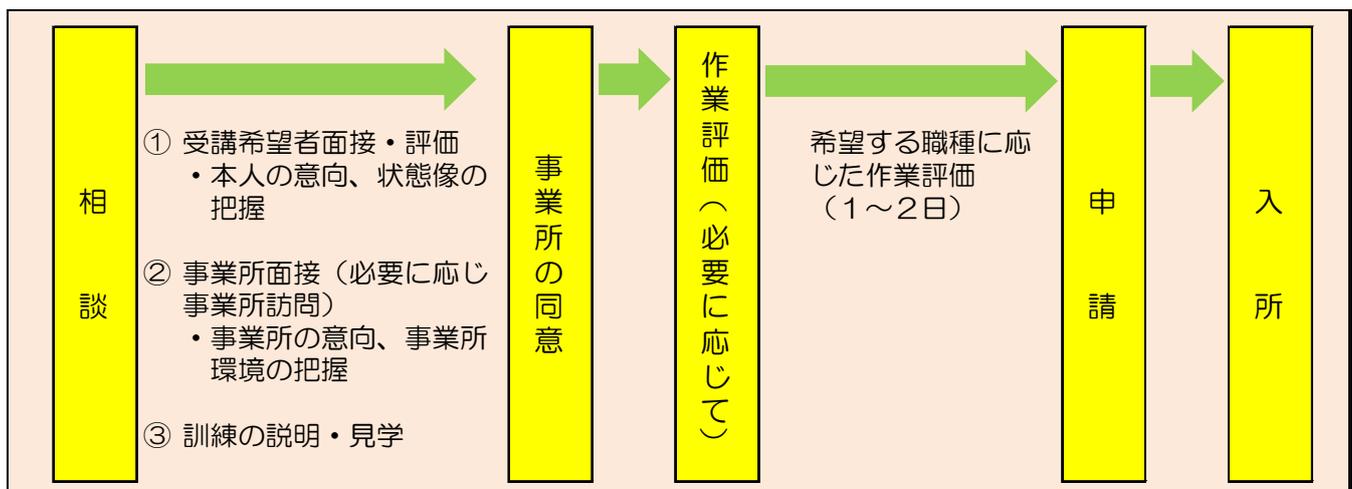
・事業主に対し、対象者の障害状況や事業所の環境等を踏まえた復職後の職務内容の設定や、作業環境の変更及び障害特性に応じた支援機器の導入等の環境調整に係る支援を実施します。

【訓練科・訓練コース】

訓練科	訓練コース
機械製図科	機械CADコース
電子機器科	電子技術・CADコース
テクニカルオペレーション科	FAシステムコース
	組立・検査・物品管理コース
建築設計科	建築CADコース
DTP・Web技術科	DTPコース
	Webコース
OAシステム科	ソフトウェア開発コース
	システム活用コース
	視覚障害者情報アクセスコース
経理事務科	会計ビジネスコース
OA事務科	OAビジネスコース
職域開発科	物流・組立ワークコース
	オフィスワークコース

★訓練コースの詳細につきましては、当センターホームページ (<http://www.nvrcd.ac.jp/>) または2021年度版の「ごあんない」をご覧ください。

訓練受講までの流れ



【お問い合わせ先】

国立職業リハビリテーションセンター 職業指導部 職業評価課

住所：埼玉県所沢市並木4-2

電話 04-2995-1201 メール：Shokureha-hyokaka@jeed.go.jp

国立職業リハビリテーションセンターにおける 高次脳機能障害者に対する職業訓練について

ハロートレーニング
(公共職業訓練)

～急がば学べ～



独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構

国立職業リハビリテーションセンター

National Vocational Rehabilitation Center for Persons with Disabilities

1 高次脳機能障害者に対する支援の考え方

(1) 支援の基本的な考え方

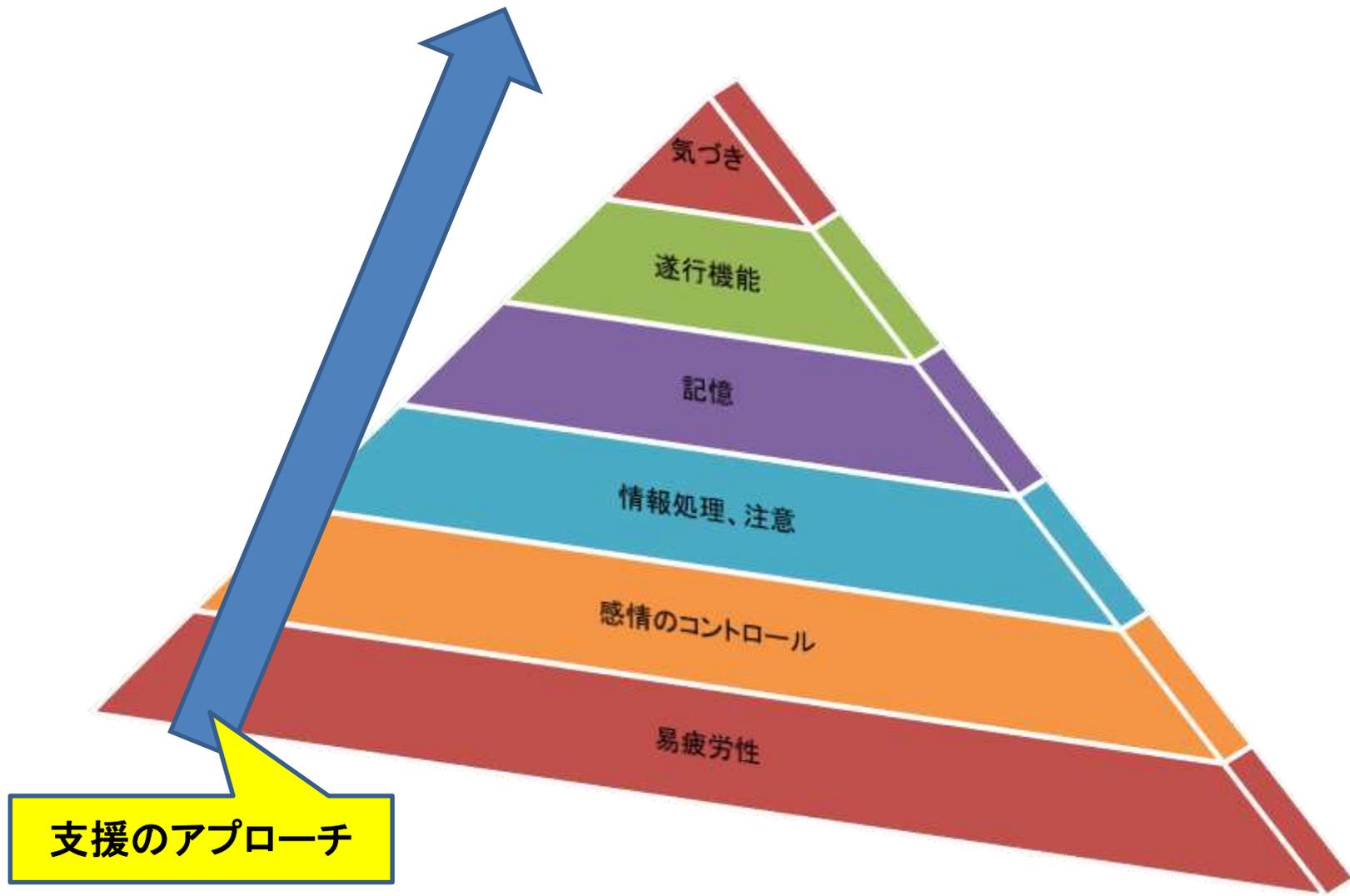
就業場面におけるコミュニケーション方法等対人スキルの技能付与等、職場適応力の向上を重視した訓練を実施。

- ① 個々の障害特性や状況に応じた指導及び支援
- ② 職場における対人技能の習得
- ③ 各種作業体験によるマッチングする職域の開発
- ④ 記憶・注意といった職業に必要な認知機能の維持・向上
- ⑤ 補完手段や補完方法の習得
- ⑥ 相談によるニーズ把握と希望指向の支援
- ⑦ 説明と同意（インフォームドコンセント）

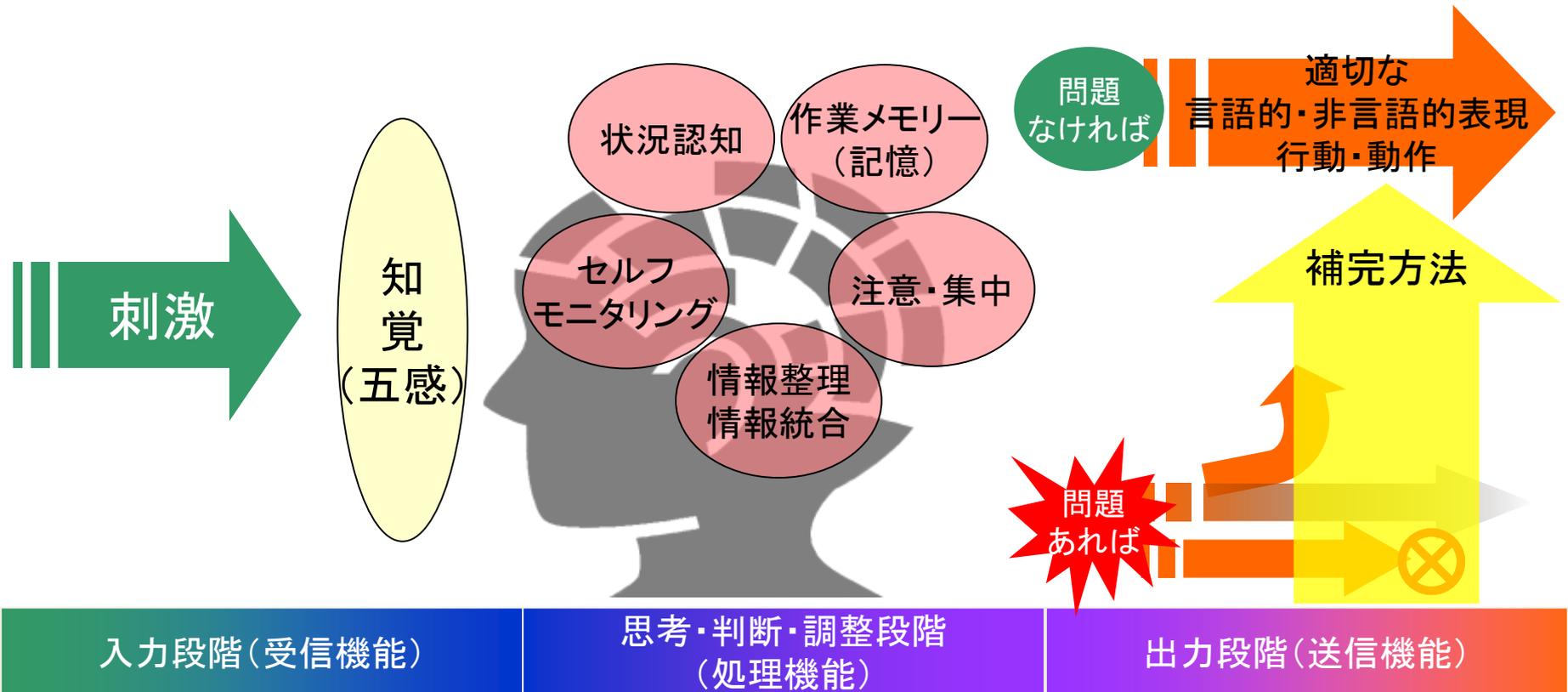
(2) 障害の特性を踏まえた支援の視点

- ① 障害を受けたことへの感情(喪失感、悲壮感など)
- ② コミュニケーション面での課題
- ③ 障害特性の多様性
- ④ 障害特性の自己理解の促進
 - 補完方法の獲得における成功体験の積み重ね
- ⑤ 職業上の課題等に影響する特性の理解
 - 身体機能面
 - 家族等との人間関係の不調
 - 不安、不眠、抑うつなどの精神的不調
 - 受障による意欲低下
 - 家族、職場関係者の障害に対する理解
- ⑥ 高次脳機能障害の特性を踏まえた支援アプローチ(※)

※高次脳機能障害の特性を踏まえた支援アプローチ



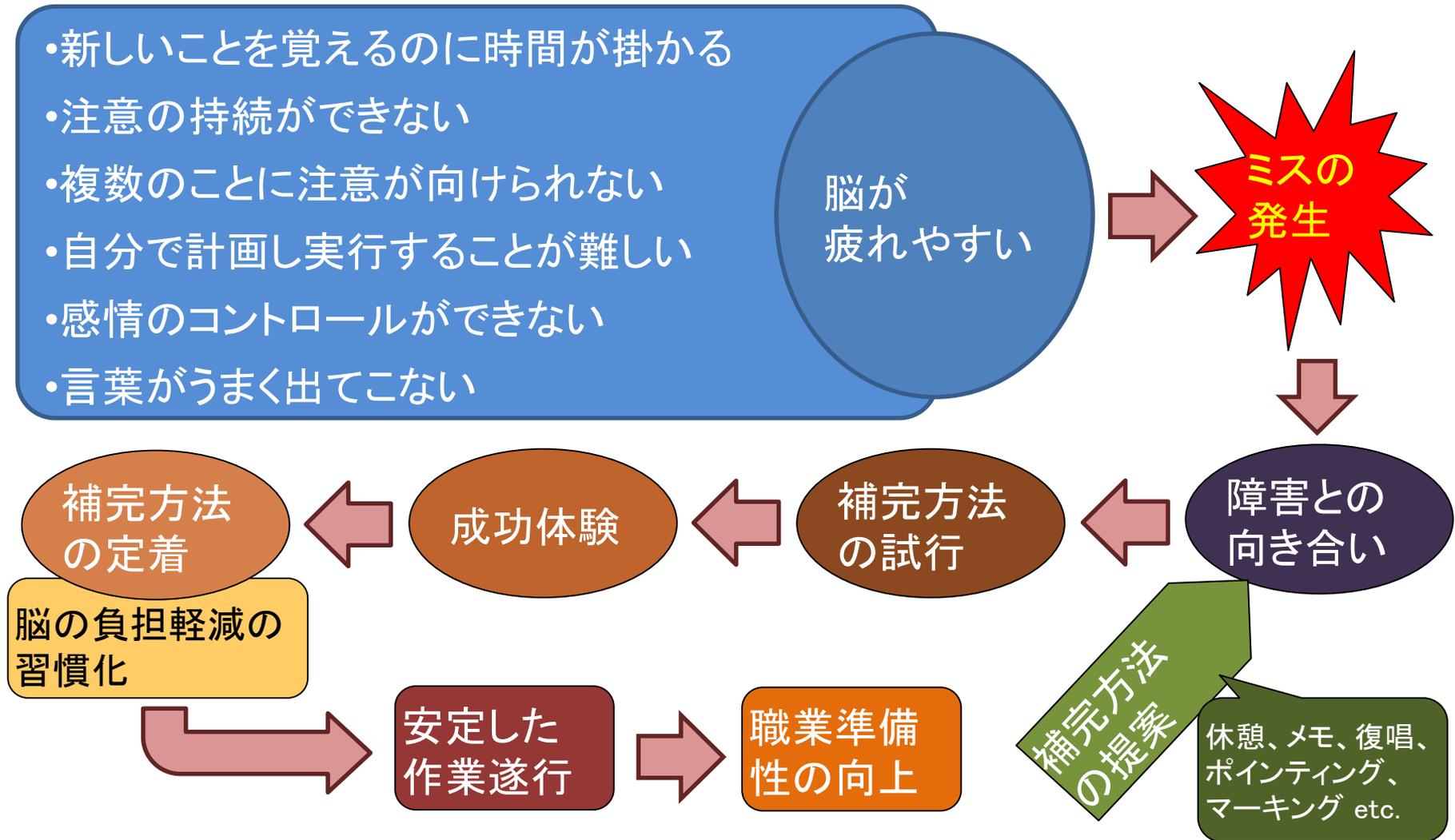
(3) 認知行動課程を踏まえた支援の視点



※ 認知行動過程の障害とは、知覚してから頭の中で判断して、行動に移す情報処理の過程が障害されることを指します。(広義での認知障害と捉えます)

※ 補完方法とは、障害を補うための対象者の行動(補完行動)、障害を補うために道具等を活用する手段(補完手段)の総称を指します。

(4) 補完方法の検討



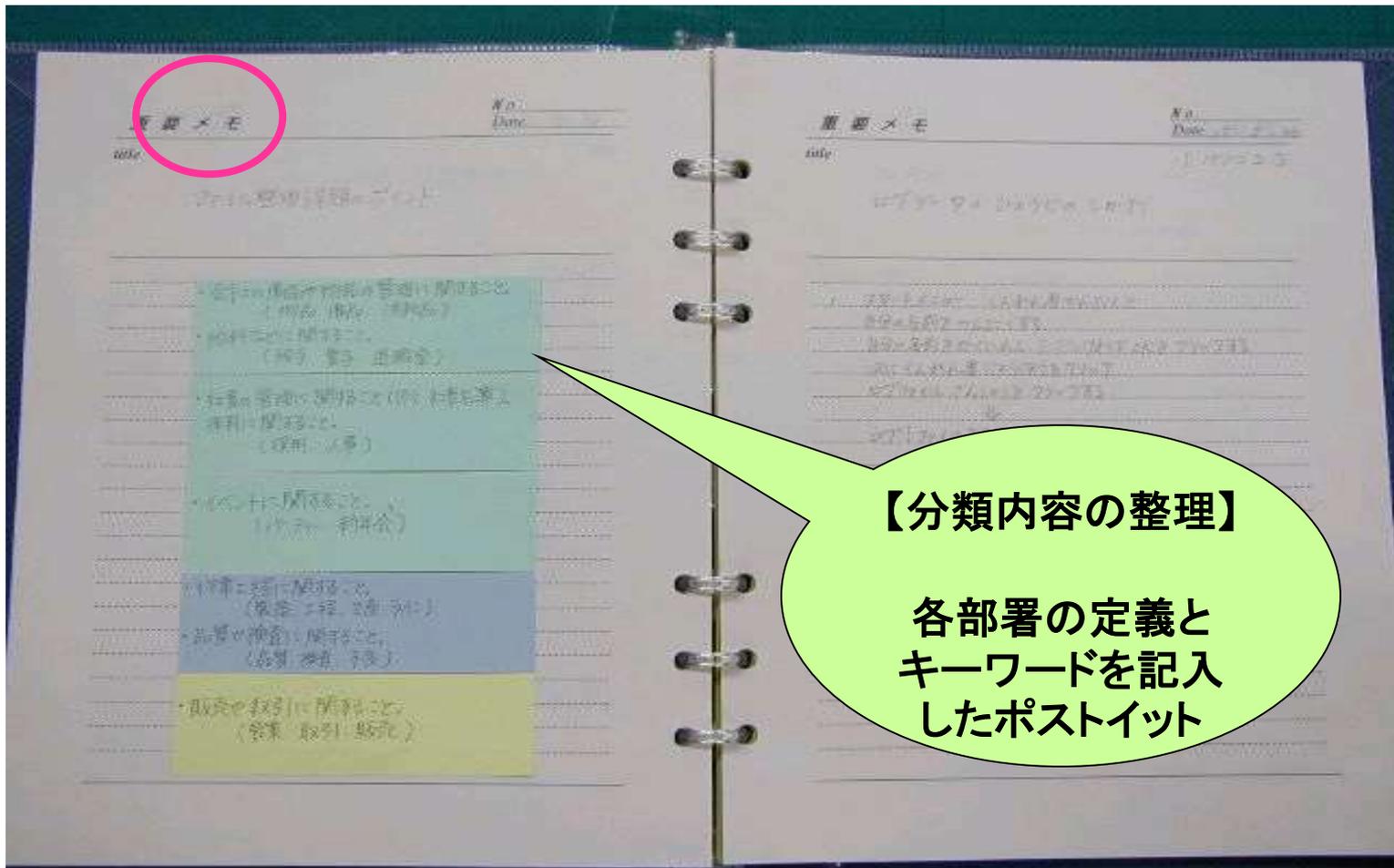
数値入力

ポインティング+読み上げ入力(3桁区切り読み)



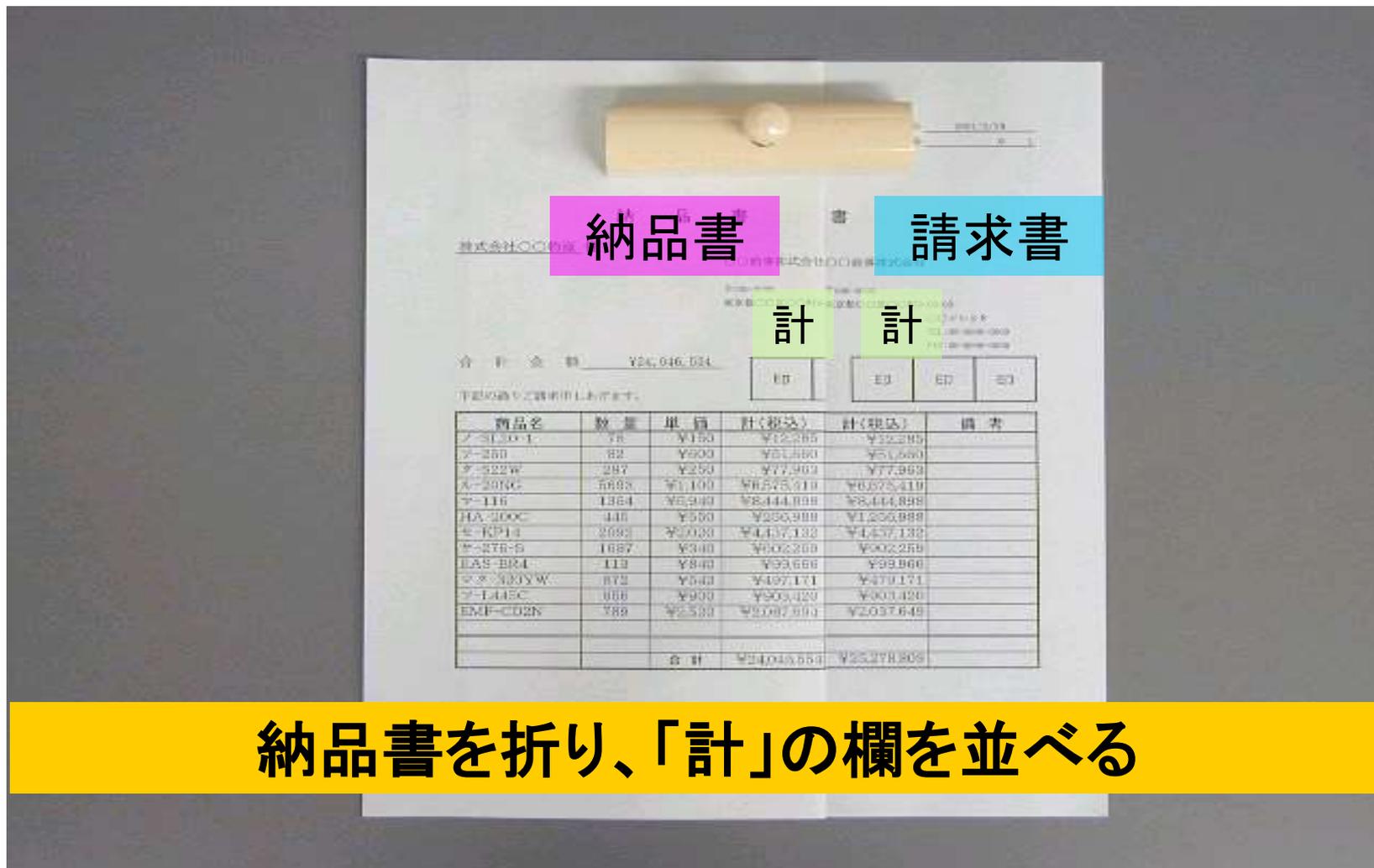
ファイル整理

メモリーノート(重要メモ) + ポストイット



数値チェック

用紙を重ねて行なう



納品書を折り、「計」の欄を並べる

物品請求書作成

品名カードを置く位置 + 定規を使う

物品請求書

品名カード

タックメモ
TACK MEMO

タックメモ(付箋タイプ)

レギュラーサイズ

品名 5-1-1-1

タックメモ

種別 付箋タイプ
付箋(レギュラーサイズ)

数量 22

品名	価格	種別	サイズ	材質	数量	単位	品名	価格	種別	サイズ	材質	数量
タックメモ	¥200	レギュラーサイズ	114×78	再生紙	10000	個	タックメモ	¥250	ミニサイズ	78×54	再生紙	10000

定規



個々の状況に応じた補完方法の活用例



スケジュール
は机の上に

携帯電話に
メモ書き



作業手順書を確認

定時の仕事はアラーム



2 高次脳機能障害者に対する職業訓練



※企業連携職業訓練

精神・発達・高次脳機能障害者等の特別支援障害者を対象に、雇入れを検討している企業との密接な協力により、特注型の訓練メニューによるセンターにおける訓練と企業内での訓練を組み合わせた職業訓練や、採用・職場定着のための支援を行う。

※ 企業連携職業訓練(概要)

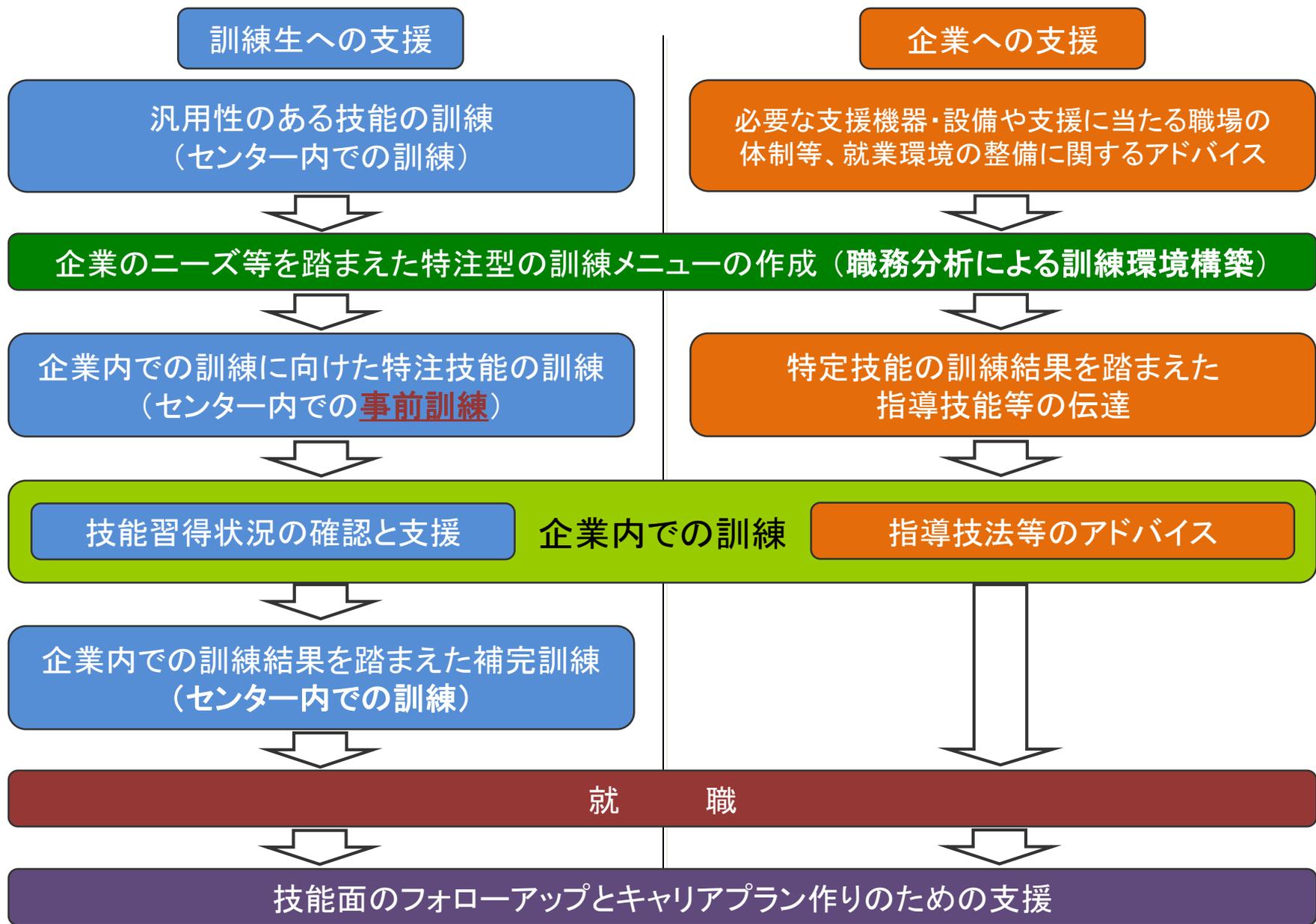
- ・集合訓練が困難で、障害の様態に応じた個別的対応が必要
- ・障害の様態に応じた職業訓練に係る技法・経験が十分蓄積されておらず、新たな技能習得ノウハウの開発・試行等の対応が必要
- ・適切に対応できる医療機関等専門家や支援者との継続的な連携が必要

特別支援障害者

を対象に、

雇入れを検討している企業との密接な協力により、特注型の訓練メニューによるセンターにおける訓練と企業内での訓練を組み合わせた職業訓練や、採用・職場定着のための支援を行います。

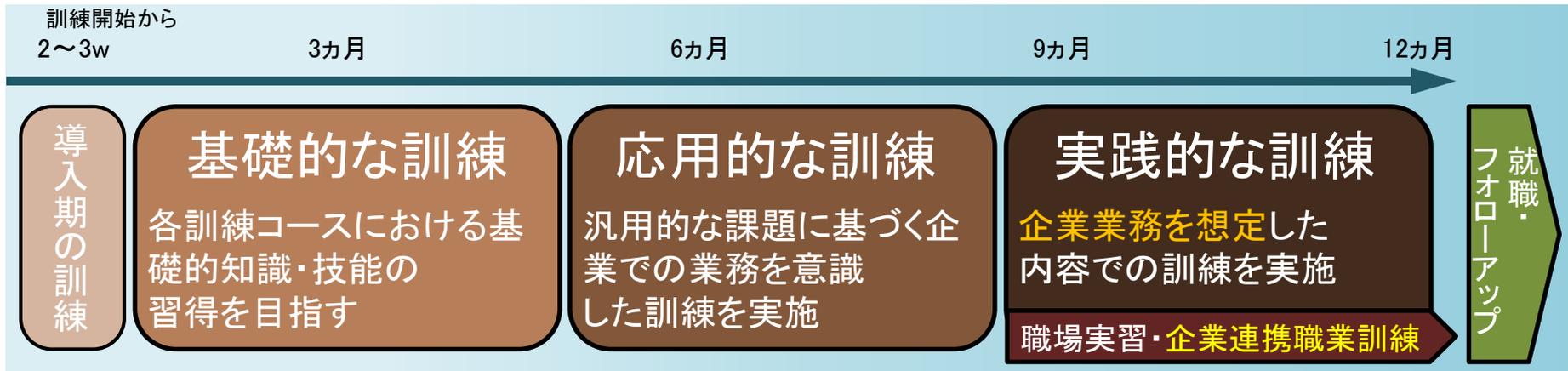
※ 企業連携職業訓練（流れ）



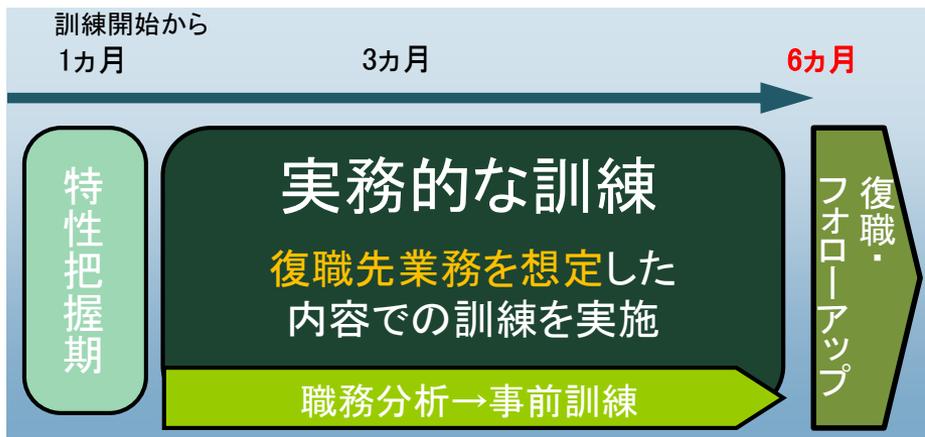
3. 高次脳機能障害者の職場復帰訓練

(1) 求職者訓練と職場復帰訓練

求職者訓練：普通課程の普通職業訓練

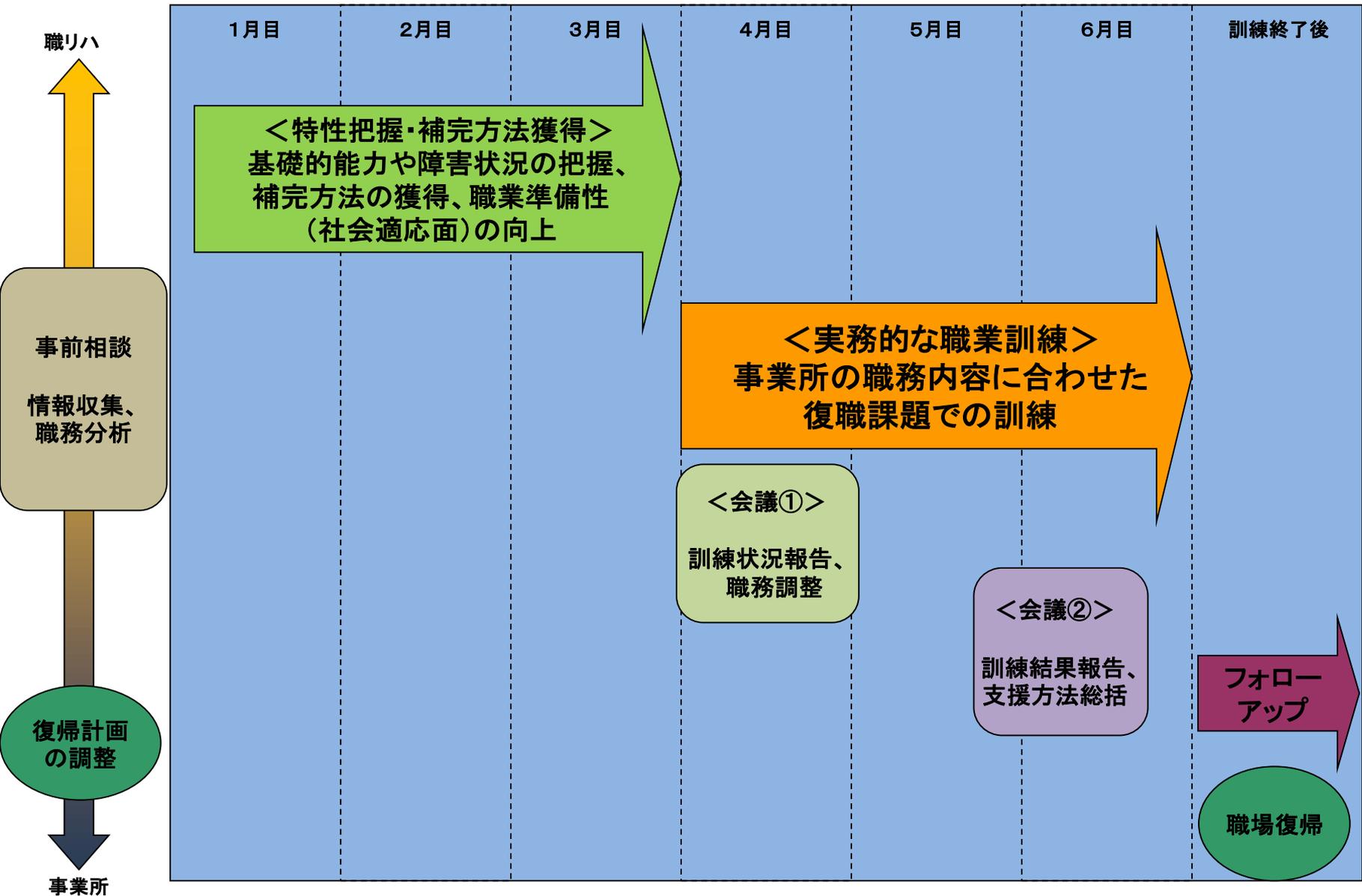


休職者訓練：職場復帰を目的とした短期過程の普通職業訓練



休職者訓練の実務的訓練の組み立て方は、求職者訓練の実践訓練期における「就職を目的とした職場実習」とほぼ同等ではあるが、訓練期間が短期であるゆえにより迅速さと綿密さが必要。

(2) 職場復帰訓練の流れ(イメージ)



「千葉リハ就労支援～高次脳機能障害者 就労移行支援プロジェクトを中心に」

千葉県千葉リハビリテーションセンター

地域支援センター 高次脳機能障害支援部

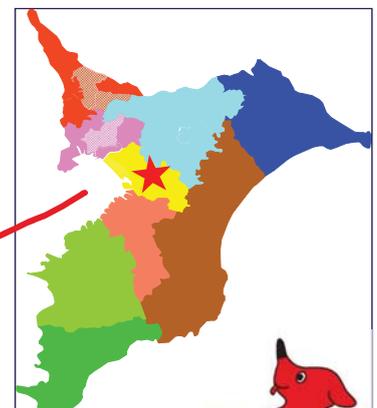
[高次脳機能障害支援センター]

部長 長谷川 純子（公認心理師 臨床心理士）



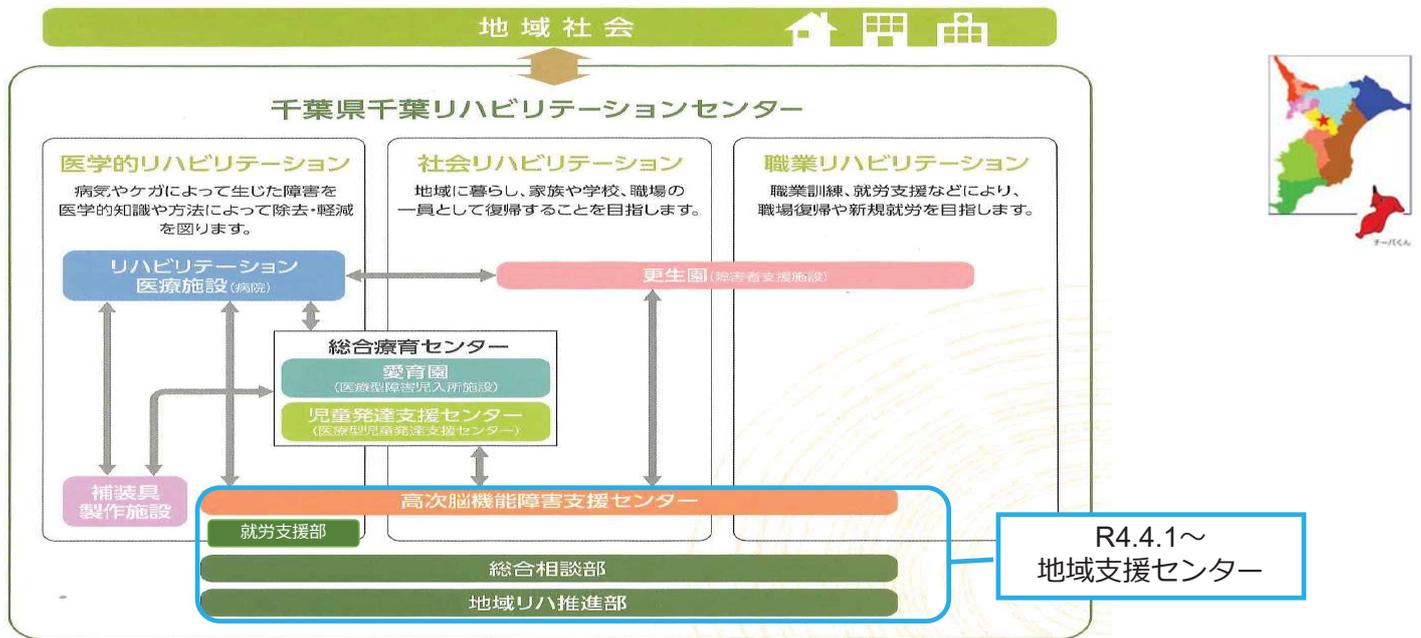
千葉県千葉リハビリテーションセンター

- ★1981年千葉県により設置
- ★小児から高齢者まで障害のある利用者を対象
- ★総合リハビリテーションセンターとして
リハ医療施設と福祉施設を併せ持ち
医療リハ・社会リハ・職業リハを提供



チーバくん

千葉県千葉リハビリテーションセンター



千葉リハ高次脳支援

高次脳支援センターと各領域別の高次脳支援プロジェクトチームにより支援を展開しています



就労移行支援プロジェクト

【目的】

医療施設、高次脳支援センター、更生園（障害者支援施設）が連携し、就労・復職を希望する高次脳機能障害者が、就労・復職・職場定着するために必要な支援方法を開発・実践し、そのノウハウを外部機関に発信する。

【メンバー】

医療（SW、OT、ST、心理）、高次脳支援部（心理、PT、OT）
更生園（職リハ：SW、OT、入所担当SW）、就労支援部（SW）

【活動方法】

月1回プロジェクト会議
各WGによる企画遂行



主な活動の紹介

1. 就労支援に関わる情報共有のための活動
2. 就労定着を支援するための活動
3. 支援者向け研修会の企画・開催・協力

1. 就労支援に関わる情報共有のための活動

I. 各部署で実施している支援状況の報告

- ※ 千葉リハは多部署で就労支援を展開している 😊
医療（入院/外来）・高次脳支援センター・更生園（就労移行/生活訓練）・高次脳マツトワークス（雇用）
- ※ 支援状況を確認しながら内部資源を有効に利用する 😊
- ※ 各部署から入る外部機関の情報を共有する

II. ケース相談

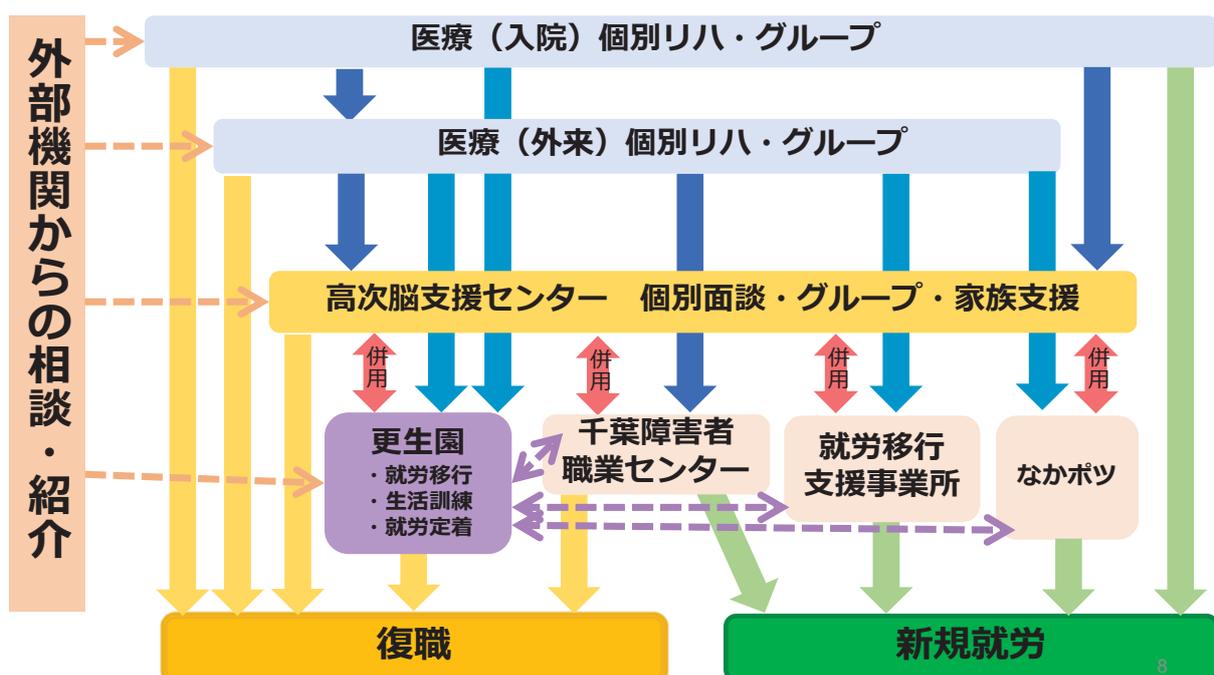
- ※ 医療など一つの部署でケースを抱えない

III. ミニ学習会

- ※ 外部機関との連携や社会資源について学ぶための学習会

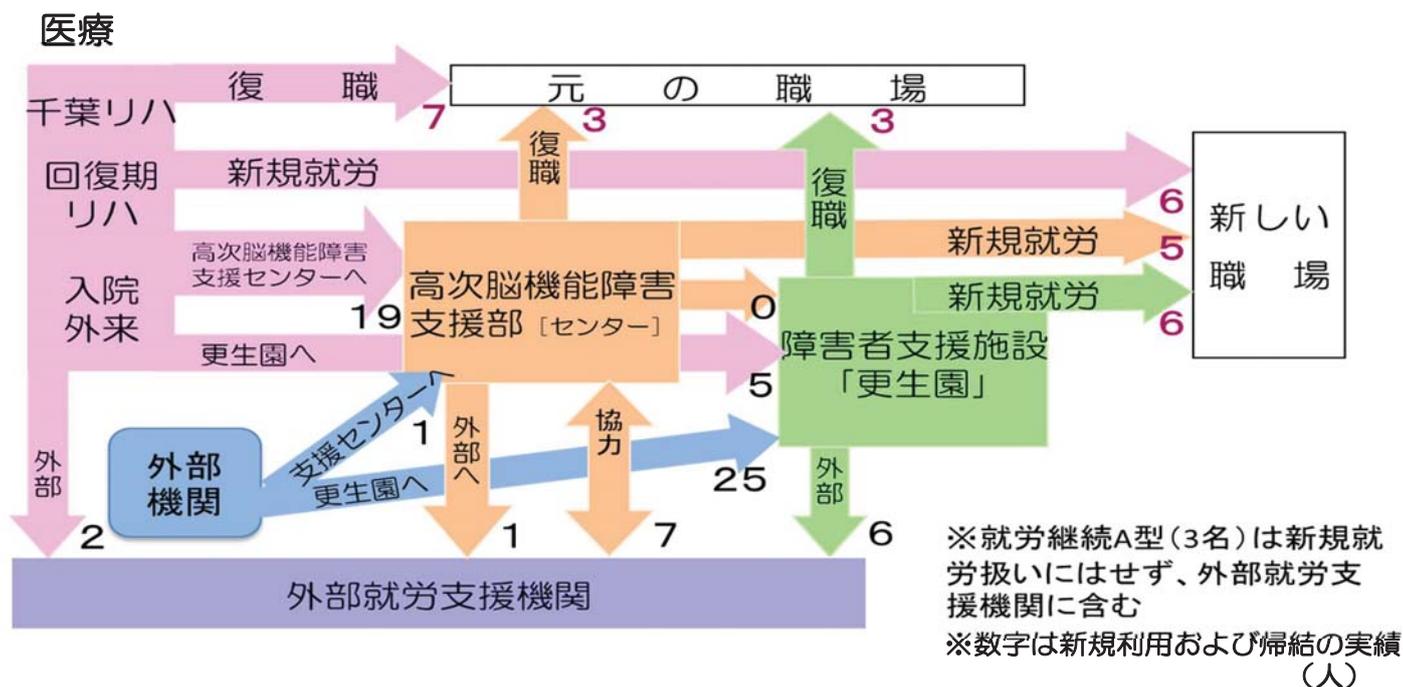
7

千葉リハにおける就労支援の主な流れ 😊

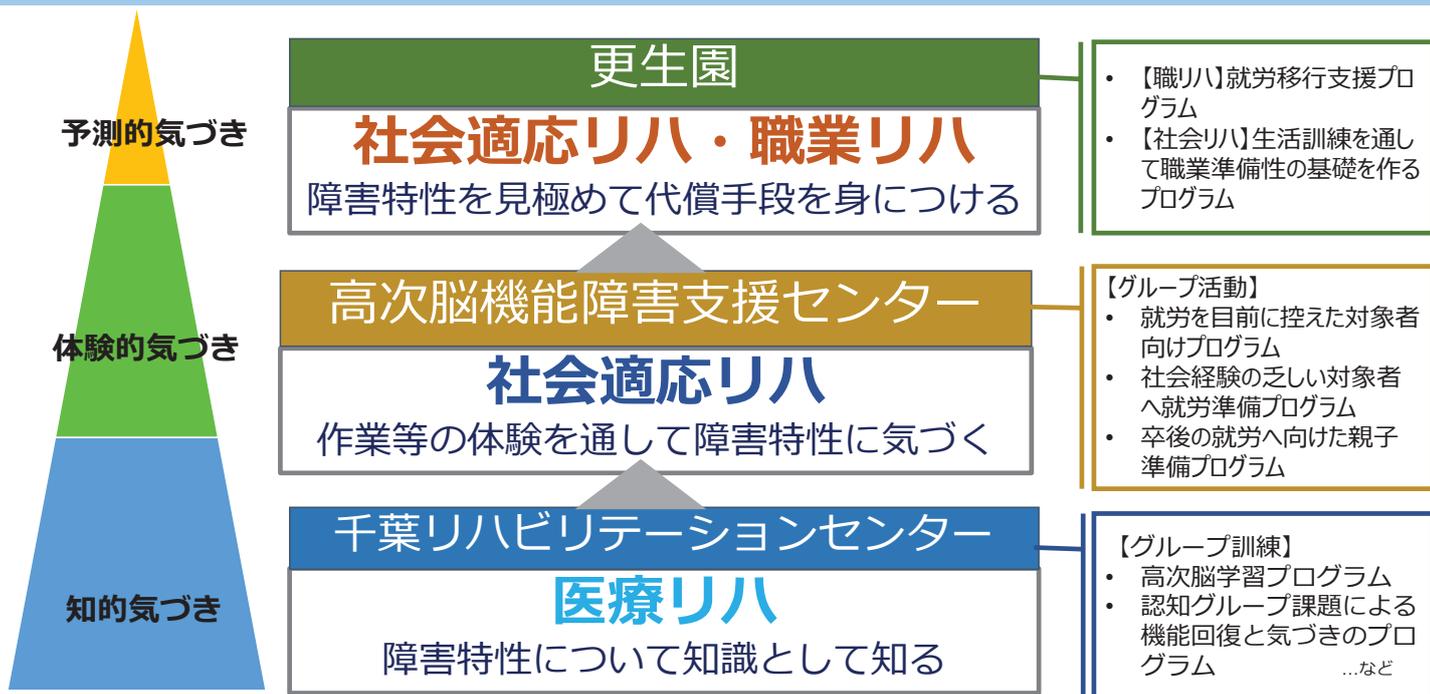


8

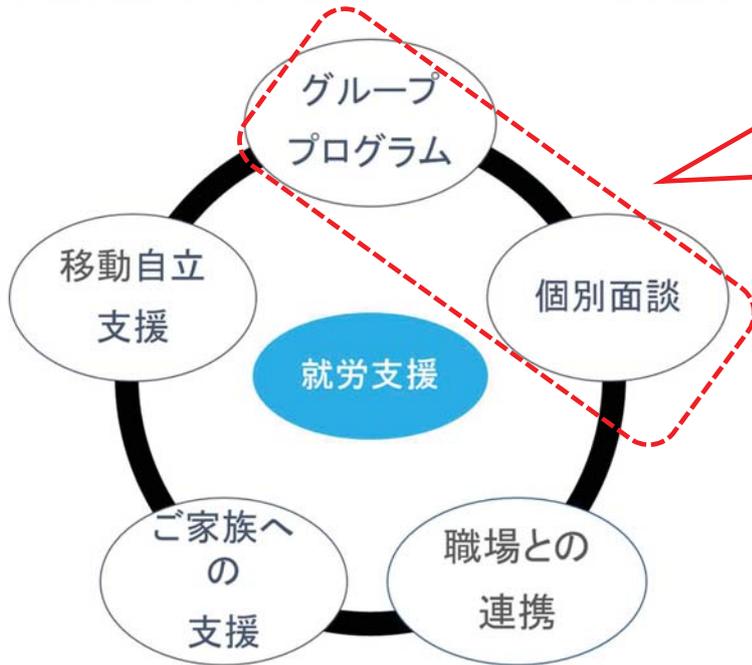
R3 千葉リハ高次脳就労支援の実績



千葉リハの段階的なリハプログラム



高次脳機能障害支援センターの就労支援



働くためのグループ・レディネス・青年期グループ

作業等の体験を通して
障害特性に気づき、障害認識（気づき）を深める

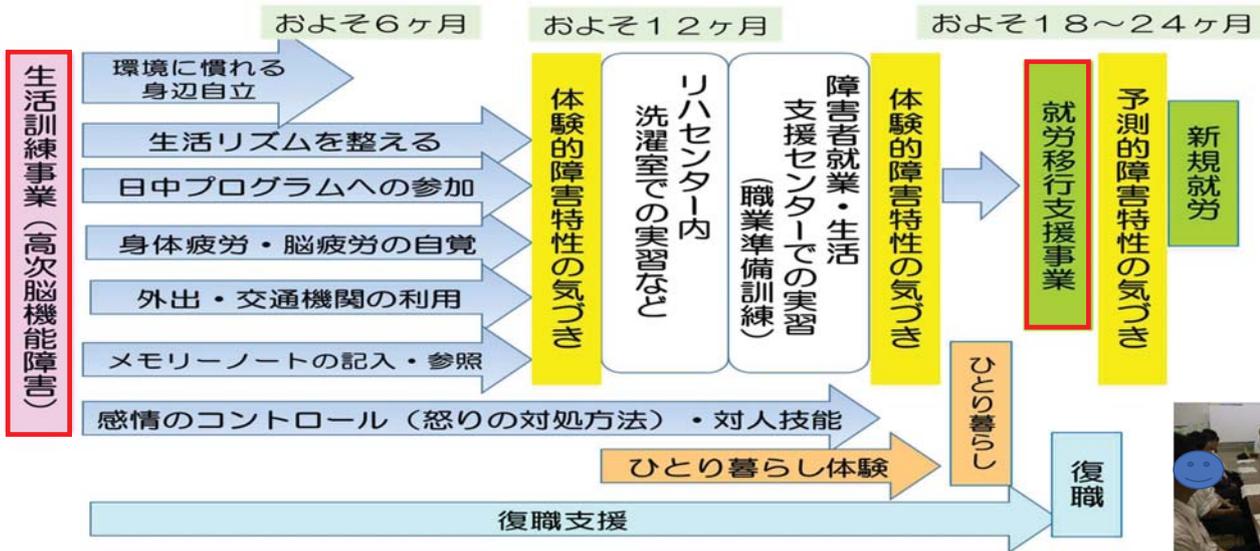
作業 体験 当事者 起こった出来事に対して ・気づきが多い ・覚えていないことが多い ・自分の障害と結び付けることは難しい	共有・ふりかえり 当事者・支援者 ・出来事と症状を結び付け、障害特性に気づく ・自分の強みに気づく ・自分に合った代償手段を知る ・必要なサポートを知る
観察・評価 支援者 出来事が ・どのような時に起こるのか ・どのような対応をするのか ・どのような症状と結びつくか	

グループ活動を実施

更生園における就労支援プログラム

～生活訓練から就労移行支援へ～

障害に気づき、対処方法を身につけていく支援の流れ
一人暮らし、復職、新規就労まで



2017年10月 高次脳マッチドオフィス開設



- 千葉リハで当事者の**チャレンジ雇用**
「高次脳マッチドオフィス」（総務部所属）
- 3年間のなかでステップアップ雇用を目指す**
- 現在 1名の当事者を雇用
- ステップアップに関しては障害者就労・生活支援センター、障害者職業センターと連携
- 更生園、高次脳支援センターもバックアップ
- 現在までに3名が就労



13

2. 就労定着を支援するための活動

※ カフェ輪駆・ヤングカフェの企画・開催

● カフェ輪駆（2013年～）

復職・新規就労した当事者の交流の場（年2回）

● ヤングカフェ（2016年～）

復職・新規就労した若年発症の当事者の交流の場（年2回）

40歳未満発症の当事者の離職率の高さに対応



カフェ輪駆

14

参加者の声

- とても良い刺激となりました。ありがとうございました。
- 他の人の話を聞くのが目的だったが、ボッチャが楽しかった。
- 「働く」を前提に交流できてとてもよかったです。障害を持ちながら働いている事での胸の内をお聞き出来て参考になりました。
- 力をもらいました。大切な時間ありがとうございました。
- ボッチャと料理を無くして、懇談の時間を長くした方が良いと思いました。
- ここの人々の本当のやさしさは、会社の人たちと比べて痛切に感じます。
- 今後も参加したいので、ぜひ連絡をお待ちしています。
- 訓練で一緒にした方が元気な姿を見ることができて良かったです。



センターのご案内 | 診療科・部局紹介 | 千葉リハの取り組み | 採用情報 | 医療関係者の皆様

> プロジェクト第一弾!
> 『自宅でできるリハビリテーション』

> プロジェクト第二弾!
> 『日常生活で使える豆知識』

> プロジェクト第三弾!
> 『みどりでつながろう』

> プロジェクト第四弾!
> 『家族会通信』

> プロジェクト第五弾!
> 『チーバくと運動しよう』

> プロジェクト第六弾!
> 『仲間へのメッセージ』

> 高次脳機能障害を持つ方への支援に関するアンケート

カフェ輪駆・ヤングカフェ ～働く仲間/働きたい仲間へのメッセージ～

カフェ輪駆・ヤングカフェとは?
元の職場に戻って働いている方、今までとは違う仕事に就いた方、更生園や高次脳機能障害支援センターの活動を終了して就労を目指して頑張っている方々が集まり、仕事や近況についてゆったりと語り合うイベントです。
昨年度に引き続き今年度のイベントも感染症対策の為、残念ながら中止となりました。今年度もまた、共に頑張っている仲間に向けた応援メッセージを募りましたので、是非ご覧ください。

メッセージ

📎 2020年度のメッセージはこちら! (PDFファイル0.7MB)

2021年度

- 高次脳機能障害がありながら、一般社会で生活をしていくのは大変な苦労はありますが、周りをあまり意識せずできることを少しずつ積み重ねていけば良いと思っています (40代男性)
- 毎週金曜日、仕事終わってから、サウナに行くことが楽しみです (40代男性)
- 今年の6月から就職でき、初めて行う作業で覚えながら今現在頑張って仕事をしています (40代男性)
- 料理 (40代男性)
- 就活と終活 自身が本当にやりたいことは、何? 可、不可に問わずできるだけ多くもっている人ってちょっとカッコイイと思うようになった (50代男性)

千葉リハHP

2020～2021年度
コロナ禍によりカフェ
輪駆・ヤングカフェは
開催断念!

- 利用者の近況と新型コロナウイルス感染拡大の影響を把握するため簡易アンケートを実施
- メッセージを千葉リハHPに掲載
- 就労に関わる相談希望があれば個別対応

3. 支援者向け研修会の企画・開催・協力

I. 外部機関向け研修会

- 2017年～「第1回高次脳機能障害就労基礎研修会」
 ※就労支援に携わる支援者を対象に年1回ペースで開催
 ※外部機関との共催
- 2018年ステップアップ講座



II. 内部学習会

- 職員向け学習会 概論+長期支援で復職した事例の紹介



III. 外部支援機関への講師派遣

例) 障害者職業総合センター研修への講師協力

- 就業支援スキル向上研修 (ケーススタディ スーパーバイザー) ※プロジェクトから派遣
- 職業カウンセラー補研修 (講師) ※高次脳支援センター講義と見学、更生園見学

第2回 高次脳機能障害 就労支援研修会
 ～働きたいを支援する。～
 ～高次脳機能障害 その特徴と就労支援～

就労支援基礎講座

第5回 高次脳機能障害就労支援研修会
 及び
 職業リハビリテーション研究発表会
 ～働きたいを支援する。～
 ～高次脳機能障害 その特徴と就労支援～

ステップアップ講座

2018年 1月25日(金) 13:30-16:30
 全日警ホール
 [所在地] 市内八幡4丁目2番1号
 ● 1 高次脳機能障害の基礎知識/障害者支援のしくみ
 ● 2 高次脳機能障害の就労支援事例/地域連携
 ● 3 高次脳機能障害の就労支援の課題

Time Schedule
 13:30-14:30 高次脳機能障害概論
 14:40-15:30 高次脳機能障害の就労支援
 15:30-16:10 就労支援事例と地域連携
 16:10-16:20 質疑

対象: 就労支援に関わる方 定員110名(先着順)
 参加費 無料



2018 高次脳機能障害 就労支援研修会
 (ステップアップ講座)

日時 11月22日(木) 13:00～16:00
 場所 千葉県千葉リハビリテーションセンター 研修室
 定員 先着 40名 対象者: 就労支援に関わる方

高次脳機能障害者の就労一歩ずつ進めるための支援—
 【内容】・高次脳機能障害者の就労の取り組み(講義)
 ・チャレンジ活動の経験から見たこと—
 ・グループワーク(事例検討)

※10月17日(水)

2022年 2月1日(火)～7日(日)
 Web開催 オンデマンド配信 ※配信期間内はいつでも視聴できます

内容
 講義1. 高次脳機能障害概論
 (高次脳機能障害支援センター センター長 長谷川純子)
 講義2. 高次脳機能障害者の職場適応促進を
 目的とした職場のコミュニケーションの介入
 ・コミュニケーションパートナートレーニング
 (障害者職業総合センター 竹内大祐氏)
 講義3. 高次脳機能障害者の就労支援
 (更生園就労支援科長 吉田大
 高次脳機能障害支援センター 岡本美希子)

対象: 就労支援に関わる方 参加費 無料
 申込締切 2022年1月18日(火)

主催 千葉県千葉リハビリテーションセンター 共催 市川市
 就労移行支援プロジェクト

2018年 市川市と共催

主催 千葉県千葉リハビリテーションセンター 就労移行支援プロジェクト
 共催 千葉県障害者職業センター

2021年 障害者職業センター
 と共催 (Web開催)

まとめ

- * 千葉リハ就労支援を「就労移行支援プロジェクト」の活動を中心に紹介しました
- ** 千葉リハの強みは「多部門・多職種」でチームを組み就労支援に取り組んでいることだと思います
- * 現在、「千葉リハ就労支援」として、部門を超えた支援全体の流れを整える取り組みが始まっています

本日はありがとうございました

誰もが街で暮らすために
Everybody will be in own town

令和4年度 第1回支援コーディネーター全国会議

グループ討論会

地域における 高次脳機能障害者への就労支援体制について

<スケジュール>

15:10~15:55	役割分担（司会、発表者） グループ討議 まとめ
15:55~16:10	発表

<グループ討議のポイント>

- ・ 高次脳機能障害支援拠点機関における就労支援
- ・ 障害者職業センター、障害者就業・生活支援センター等との連携
- ・ 就労移行支援、就労継続支援（A型・B型）事業所等における高次脳機能障害者支援
⇒ 地域における就労支援体制の充実に向けた取り組み